



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 岩本ゼミナール機関誌 1999, 4

ISSUE DATE:

1999-03-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56880>

RIGHT:

岩本ゼミナール機関紙

第 4 号

1999 年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミ機関紙第4号(1999年度版)

目次

近況報告	岩本武和	4
ゼミ単位取得論文		
金融危機と通貨危機	藤嶋正信	7
社会主義経済市場の移行——中国経済をめぐって	王満	23
日本・米国の資金需給部門（企業・家計・政府）について	久田洋平	41
経常収支の動向と国際資本市場の動向		
—人口高齢化の国際的影響に関する一考察—	清谷春樹	69
2、3回生年間活動報告およびインゼミ報告		90
	丸山洋平	
	柵山順子	
	松下朋弘	
	遠藤量太	
	偷伽篤志	
特別寄稿		
円の国際化とアジア通貨危機	岩本武和	113
スラッファ標準体系と収穫法則	山本英司	137
世界銀行の対日火力発電借款	柴田茂紀	145
岩本ゼミ5期生の素顔		164
先輩からのメッセージ		166
98年度岩本ゼミ決算報告	王満	171
OBの方へ	藤嶋正信	173
編集後記	藤嶋正信	175
99年度岩本ゼミ名簿(2000年2月現在)		176

OBの方へ

5期生 藤嶋正信

●ホームページ開設のお知らせ

この春、5期生が卒業してOBの数も40人ほどになります。こうして岩本ゼミの規模もかなり大きくなるにしたいが、青竹会などイベントのお知らせ、住所確認など、事務的な手続きがたいへんになってまいります。また、現役生、OB共にPCもかなり普及しているようですので、ゼミ生間の連絡を用意に、かつ密にするため、岩本ゼミのホームページを立ち上げたいとおもいます。

京都大学の経済学部サーバにある岩本先生のプロフィールの項にリンクが貼られているはずです。URLは、

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~iwamoto/profile.html>

となるはずです。本項を執筆時点ではまだアップロードしておりませんが、みなさまのお手元に届く頃には完成しているはずです。当面、青竹会の連絡用に使いたいとおもいますので、機会があればお目を通しておかれるようお願いします。

●青竹会の開催について

2000年度は、第2回の青竹会が開催されます。日時は例年通り、2000年の9月15日、敬老の日とさせていただきます。まだ詳細は詰めておりませんが、決定次第みなさまにお知らせいたします。

●寄付のお願い

99年度も、OBの方からは多額の寄付を頂き、ありがとうございました。インゼミをいくつも開催できるのも、4回生の書くゼミ論をこうして機関紙という形に仕上げることも、すべてOBの方からの寄付があったからこそです。現役生を代表して、この場をお借りしてお礼申し上げます。

2000年度も、改めて寄付を募りたいと思います。OBの方には一人一口7000円の寄付をお願いいたします。できればインゼミの始まる秋口までに下の口座にお振込をよろしくお願いします。

第一勧業銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 様

9月15日には青竹会が開催されますが、その時にお支払頂いても結構です(青竹会の開催費用は別途当日徴収させていただきます)。

以上

編集後記

今年度のゼミ活動で目を引くのは、やはり4回ものインゼミでしょう。3回生はたかだか10人。その10人が、2回生の9人と共に研究室に寝泊りしながらやりとげたインゼミは、はたからみて涙を誘うものでした。ある者は朝に中国を調べたかと思うと夕には貿易論の文献を漁り、またある者は2週間研究室に泊まりっぱなし。また、ただひたすらPCに向かい、疲れたらソファで寝るだけの生活を送る者もいる。研究室に歯ブラシが何本あったことか。岩本ゼミも、6年目にしてここまで来たか、という感じです。

ただ残念なのは、そのゼミ生たちの勇姿を、ほんの20ページほどでしか先輩方にお知らせできないことです。3回生10人全員と、幾人かの2回生が寸暇を惜しんで必死で取り組むさまは、今思い出しても感動を禁じえません。これを先輩方にお伝えしたいというのはホームページを立ち上げようと思った動機のひとつでもあります。

夜の方も然り。春合宿の飲み会から、前期の打ち上げコンパ、夏合宿での飲み会、相手校を変えて、4回のインゼミの打ち上げコンパ、新年会に、追いコンと、伝統行事が今年も目白押しでした。また今年度は特別企画として、10月には岩本先生、高橋さんの教授、助教授昇進コンパと、非常におめでたい席も設けられました。

少々強引な結びですが、一年間にこれだけコンパが開催されるというのは、岩本ゼミの活動にそれだけイベントが盛りだくさんで、かつゼミ生も精力的に参加しているということの裏返しではないでしょうか。まさに、コンパの回数が、ゼミ活動の活発さのバロメータとも言えるでしょう。コンパ委員は、普段あまり表だって感謝されることは少ないですが、今年度これだけのコンパを用意してくれた柵山さん、この場を借りて「お疲れ様でした」とお礼を申し上げます。

コンパと言って私が思い出すのは、一昨年のく〇しまでの新年会です。腐った鉄火巻を食べながら、その席で私はこんなことを“新ゼミ長の抱負”として申し上げたように覚えています。

「その日の報告者と先生、TAだけの会話じゃなく、担当者以外の間でも活発に議論がなされるようなゼミにしたい」

この抱負を改めてもう一度、(大学院に進学する)私の4月以降の目標のひとつとさせていただきたいとおもいます。私にとってはともかく、岩本ゼミにとって私の進学は幸なのか不幸なのか、それは――10年くらい経たないと分かりませんが。。

最後になりますが、こうして第4号の機関紙が発行できるのも、また私たちが無事卒業できるのも、これを読んでくださる皆様のおかげです。そのなかでも特に、岩本先生、高橋さん、柴田さん、山本さん、OBのみなさま、そして丸山ゼミ長はじめ各委員諸君、ありがとうございます。卒業生を代表しまして、この場をお借りしてお礼を言いたいとおもいます。

9月の青竹会をどのようなものにするか、構想を練りながら筆を置きます。

2000年2月26日
編集委員 藤嶋正信

岩本ゼミナール機関紙 第4号
1999年度版

1999年3月24日
京都大学経済学部
岩本武和研究室発行

禁無断転載